

防除対策と今後の課題

ウンカ類の防除対策と今後の課題

ウンカ類の防除は、いつ、どのくらいウンカの飛来があったかを把握し、その後の増え方を予測することが最初の手順になります。もし、イネに被害が出る可能性がある場合、いつ、どのような殺虫剤で防除するのが最も効果が高いのかを判断することが重要です。そのような考え方で、まず各県の病害虫防除所などの機関が県内の予察圃場でウンカの飛来量や発生量を調査し、防除が必要か否か、防除に適した時期はいつかを予測しています。また、殺虫剤抵抗性の情報をもとに、どの殺虫剤の効果が高いか判断し、それを発生予察情報として出します。もしも発生量が多い場合には、注意報や警報を出します。このような情報を出す際に、ウンカの飛来予測モデルや殺虫剤抵抗性の情報が活用されています。この発生予察情報を参考に生産者が防除をすることになります。

ウンカに対する抵抗性イネ品種は、まだ十分に実用化されていませんが、近い将来、抵抗性品種が開発されて普及するものと思われます。抵抗性品種が実用化されれば、殺虫剤が主体のウンカの防除体系から脱却できるものと考えられます。

3種類のウンカは、アジア地域を広域に移動する害虫です(図1)。そのため、日本のみならず、ウンカ類の飛来源であるベトナム北部や中国を含めた地域での発生予察や防除対策が必要です。今後、ウンカ類の被害を押しやるためには以下のような取り組みが重要と考えています。

飛来源では、①国を超えた殺虫剤抵抗性のモニタリング体制の確立とウンカ類の発生時期・量の把握、②それらの情報を交換することができる国際ネットワークの構築、③殺虫剤使用量の削減とそれによる天敵類の保護・働きの強化をすすめることが重要です。

一方、飛来してくる日本では、①飛来源の発生情報を盛り込んだ飛来予測モデルの開発、②防除に必要なウンカに効果の高い殺虫剤の選定と新たな開発、③ウンカ類が発生しにくい移植時期や施肥管理を取り入れた栽培方法の確立、④ウンカ類に対する抵抗性遺伝子を導入した良食味水稻品種や飼料用水稻品種などの品種育成が重要なポイントになります。

このようなことも視野に入れながら、これからも研究に取り組んでいきます。

【生産環境研究領域 松村 正哉】



図1 ウンカ3種類の移動時期と移動経路